

【アレルギー性結膜炎（巨大乳頭性結膜炎）】

ソフトコンタクトレンズは非常に使いやすいという利点で多くの人に用いられていますが、一歩間違えば大変な合併症を引き起こす危険なレンズでもあるのです。ソフトレンズを処方目的に来院された患者さんが、「アレルギーがあるからソフトレンズは無理ですね」と言われ「何故？特に変わり無いのに・・・」という表情をされるケースが見受けられます。

実はソフトコンタクトレンズはアレルギーとの相性が悪く、かえってアレルギーを悪化させてしまう可能性があるレンズなのです。

ソフトコンタクトレンズはレンズの性質上、水分やそれに含まれている汚れなどをレンズの中に吸収してしまいます。また、眼の中には多くの細菌が存在し、それもレンズの中に吸収されていきます。従ってレンズの洗浄と消毒をしっかりと行わないと、レンズの中の汚れが増加し、細菌が増殖し、さまざまな障害を眼に引き起こすことになるのです。

その一つが『アレルギー性結膜炎』です。アレルギー体質の方（花粉症や鼻炎、アトピーや喘息を患ったことのある方）は眼の汚れや刺激に非常に敏感です。そのため、使用するレンズが汚れていると、その汚れに眼が反応してアレルギーが起こり、まぶたの裏側が赤く腫れ、小さい粒状の変化を起こします。（下図1：アレルギー性結膜炎）

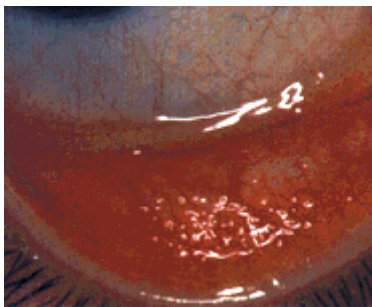


図1：アレルギー性結膜炎

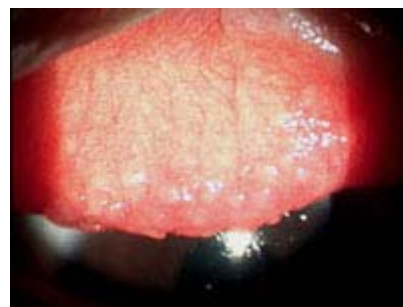


図2：巨大乳頭性結膜炎 (GPC)

自覚症状として『かゆみ、メヤニ、異物感』などを感じるようになります。この程度のものであればソフトレンズでもケアをしっかり行い、必要であれば点眼治療を行えば使い続けることは可能であると思われます。

しかし、これが強まると粒状の部分が融合して巨大化し、先程のような自覚症状が増悪して次第にレンズが上の方へずれてしまうようになります。これを『巨大乳頭性結膜炎 (GPC)』といい、こうなると治療に数週間～数ヶ月を要し、その間はレンズの装用を中止するか、1日使い捨てタイプのレンズで対処するしかなくなります。（上図2：巨大乳頭性結膜炎）

しかもこれは、アレルギー体質でない方でも起こることがあり（コンタクトアレルギー）、またソフトレンズだけでなくハードレンズの機械的な刺激でも起こることがあります。

これを防ぐためにも、アレルギーの強い方は少なくとも悪化の頻度が少ないハードレンズや使い捨てレンズをお勧めします。